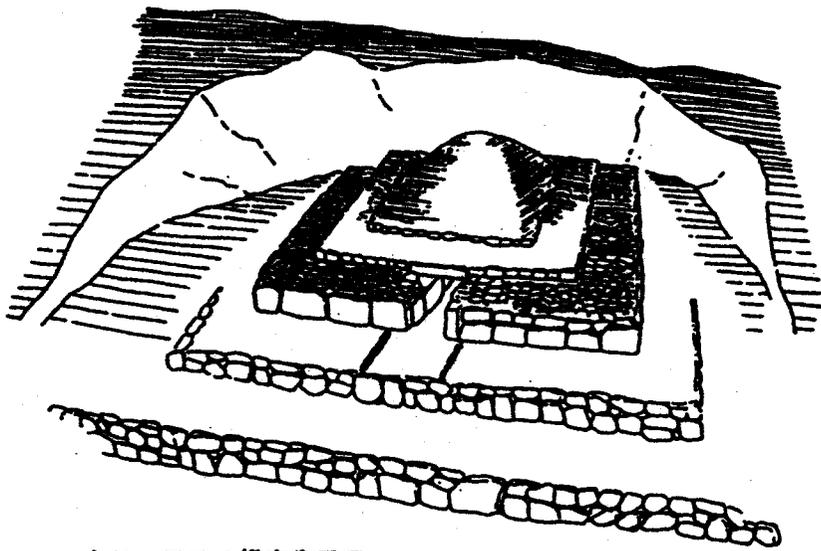


秋の古墳巡り

- 晩秋の北房路を歩く -



大谷1号墳の推定復元図

備陽史探訪の会

平成6年11月13日(日)

はじめに

北房町は、耕地面積約2.6平方キロをかかえた、完結的な小盆地です。

この盆地の中には、備前の旭川と合流する備中川が、南西から北東に向かって流れています。さらに、盆地の周囲は東辺をのぞいて、高い山に取り囲まれており、県内の他の地域と、ほとんど完全に区分することができます。

町内には約260もの遺跡が知られており、それらのうちでも特に、首長クラスの古墳・寺院・郡衙などが一つの盆地の中に集中している点で、古代史を考えるうえで貴重な資料を与えてくれる地域です。

今回の「秋の古墳巡り」では、こうした、遺跡の宝庫である北房町に残された古墳を中心に見学します。

行程

福山駅 - (国道313号線) → 井原市 → 川上町(トイレ休憩)

→ 高梁市 → 北房町

↓

大谷1号墳(終末期の5段築成の方墳)

↓

ふるさとセンター(町内出土遺物の見学)

↓

(昼食)

↓

荒木山東塚・西塚(前期の前方後円墳・前方後方墳)

↓

定1号墳(金モール出土の終末期古墳)

↓

定北古墳(切石積みの終末期古墳)

↓

高梁市 → 井原市 → 福山駅

○大谷1号墳

中津井川に向かって張り出した低い丘陵の南斜面に位置する古墳である。古墳の前面には丘陵が間近に迫り、川岸に広がる平地を見通すことはできない。

昭和63年(1988)と平成5年(1993)に発掘調査が行われ、その概要が明らかとなり、現在、史跡整備中である。

(墳形・外部施設)

墳丘は斜面を利用したためか、南北10.5m、東西15mのややいびつな台形を呈する。高さは2.5mあり、2段に列石が巡らされている。

1段目の列石は高さ1.5m以上あり、特に正面に当たる南辺は1mを超える大きな1枚石を立て並べて築いている。2段目はあまり残りはよくないが、長さ50cmほどの石を数段積んでいる。また、1段目と2段目の間のテラスには平石を敷き詰めている。

1段目の南辺中央に開口する石室の前面には、墓道を区画する石列が存在するが、形式的なものとなっている。

(内部施設)

石室は切り石を用いて築かれた両袖式のもので、全長6mを測る。

玄室は長さ3m、幅2mの長方形である。高さは1.8mあり、奥壁と右側壁は1枚石で、左側壁は6枚の切り石を2段に積んでいる。

天井は1枚石で覆われ、床には平石を敷いている。

羨道は、長さ3m、幅1.2mあり、袖石と列石の間を埋めるように切石を2～3段積み上げている。

石室内には、木棺と陶棺が納められていた。奥壁に向かって左側に置かれていた木棺は、厚さ2cmの厚板に長さ6cmのクギ24本を打ち付けて組み立てられていた。右側に置かれていた陶棺は、須恵質の四立柱型の家形陶棺と呼ばれるもので、長さ190cmを測る。

(副葬品)

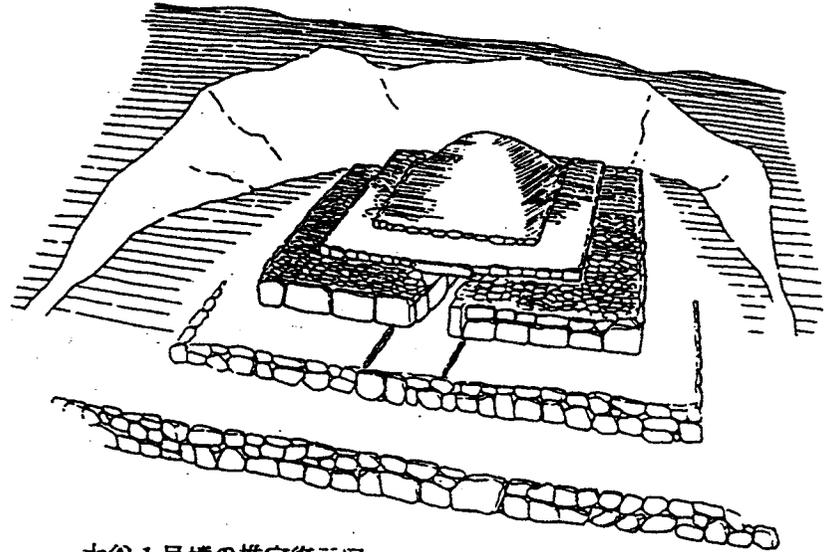
石室内は盗掘を受けていたが、奥壁に沿って副葬品の一部が残されて

いた。

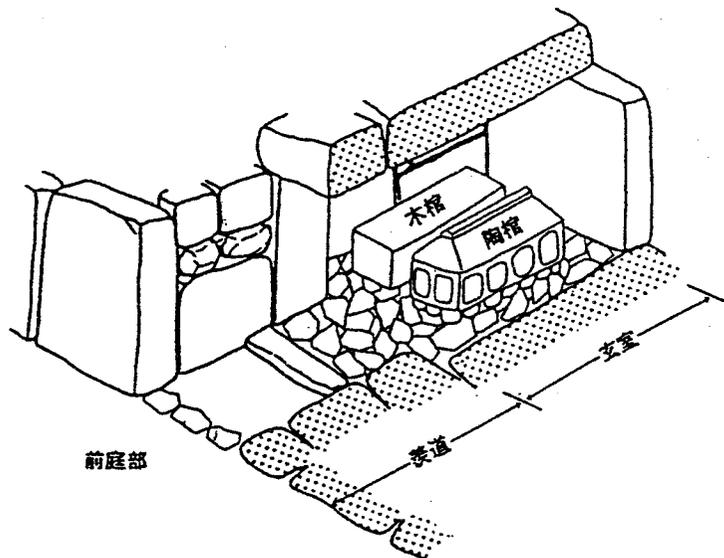
陶棺の北側に置かれていた「金銅装双竜環頭太刀」は全長110cmを測るもので、環頭太刀の中では新しい型式に属するものである。

このほかに鉄鏃や鉄斧、須恵器・土師器などが出土している。

これらの遺物は7世紀後半でも新しい時期を示しており、この地域最後の古墳ということが出来る。



大谷1号墳の推定復元図



大谷1号墳の横穴式石室（切石積み）

○荒木山東塚古墳

備中川の右岸、盆地のほぼ中央の北山麓に位置する。

ほぼ南西に面する前方後円墳で、全長約43mを測る。墳丘は2段に築成され、後方部は15×10mで古墳の軸に沿う方がいくぶん長い。

接続する前方部は低い位置から長く伸び、先が顕著に開きバチ型を呈し、前端部の幅は約14mを測る。

墳形ばかりか大きさまでも、備前車塚古墳と極めて似ており、前期前半の築成を予想させるものである。

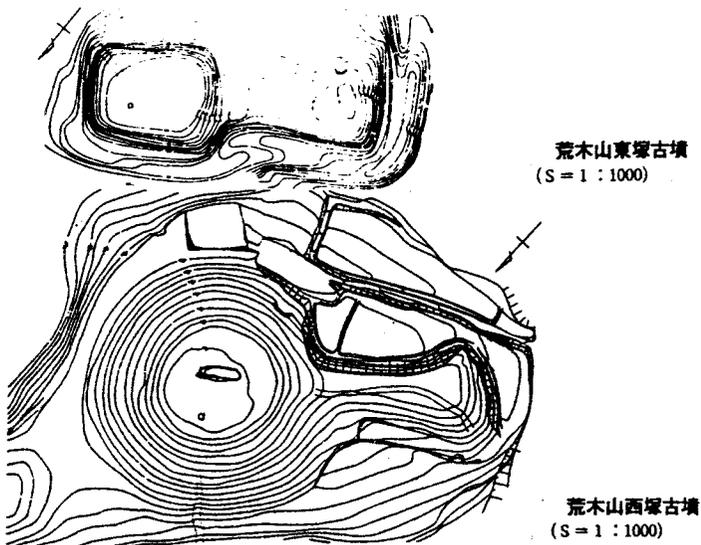
○荒木山西塚古墳

荒木山東塚古墳の南西約40mの位置にあるこの古墳は、南西に面する前方後円墳で、前方部の先と南縁は部分的に破壊されて確かめることがないが、全長は63m以上ある。

このうち後円部が37~38mを占め、4mもの高低差を持って低い前方部が付設し、その南端がやや開く形になっている。

後円部の中央やや南よりに墳丘軸線と平行して、長さ約4.5m、幅0.9mの割り石小口積み製の竪穴式石室が露出している。

後円部が相対的に大きな、その墳形は吉備中山茶臼山古墳や奈良県の箸墓古墳に類似しており、確実に前期前半に属する古墳と言える。



「吉備の考古学的研究(下)」より

○定1号墳（定東塚古墳）

大谷1号墳のある丘陵の反対側に築かれた古墳である。

従来、横穴式石室を主体部とする前方後円墳と考えられていたが、近年の調査によって東塚（20m四方）と西塚（10m四方）の方墳2基が並んでいるものであることが判明した。

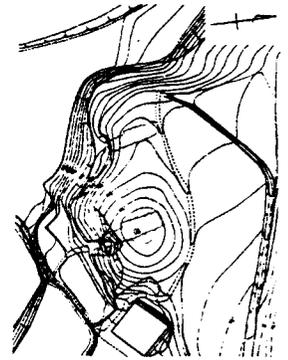
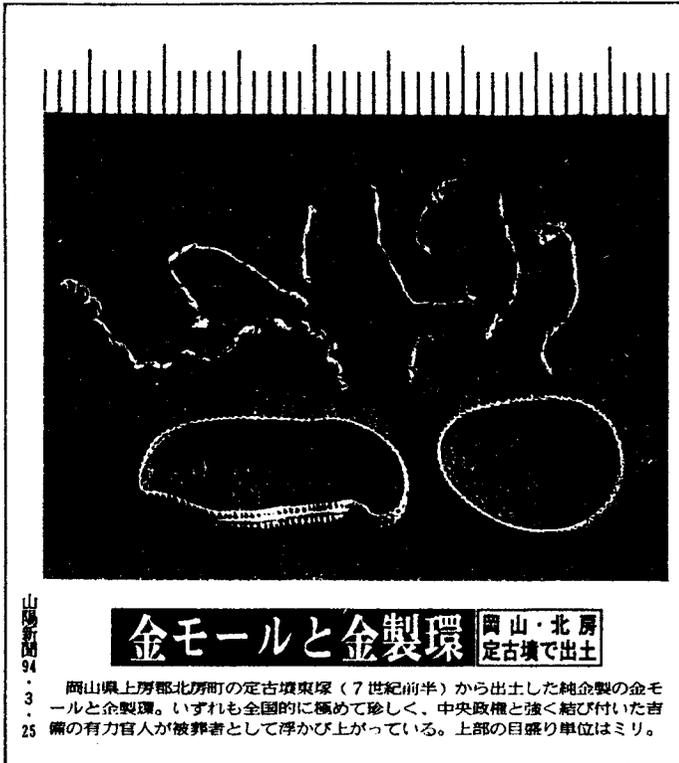
このうち、東塚の方が発掘調査が行われ、3段築成の方墳の横穴式石室（全長11.6m）が確認された。玄室は長さ5.4m、幅2.4m、高さ2.5mで、入り口付近に陶棺の破片が確認されている。

この玄室の床面から、衣服や装身具の一部と見られる純金製の金モール8本と金環2点が発見された。

金モールは幅0.5mm、長さ0.3~2cmで、金板をコイル状に、よりをかけたもので、舶載品と見られている。

また、金環は幅1.2mmで、直径15cmの円形に復元できる。いずれも表面に細かい刻み目の細工が施されている。

古墳時代終末期の7世紀後半の築成と見られている。ちなみに、金モールは藤原鎌足の墓と言われる高槻市の阿武山古墳など、全国的に数例しかなく、被葬者がかなりの身分の者であったことが推測できる。



定東塚・西塚 (S=1:1000)

「古墳の考古学的研究(下)」より

○定北古墳

古くから切り石積みの石室を持つことで知られていた古墳であるが、平成2年から発掘調査が行われ、その全容が明らかになった。

(墳形・外部施設)

丘陵の南斜面を利用して築かれた墳丘は、南北24m、東西22mの長方形で、高さは6mある。列石を3段に巡らせているが、石室の開口部に連なる2段目は大型の石材を用いて特に精巧に築かれており、南北17.5m、東西14.5m、高さ1.8mを測る。

開口部の前面には、長さ5m、幅3.2mの墓道を区画するように2列の石列が伸びており、甕・坏・高坏・平瓶などの須恵器が出土している。

(内部施設)

南に開口する石室は、両袖式の切り石積みで、全長10.2mを測る。

玄室は長さ約4.1m、幅2.1mの長方形で、高さは1.9mを測る。壁面はほぼ垂直で、奥壁は大型の石材を2段に積んで構築し、側壁も大型の石材の上に横長の石を1段積み、天上石との間を平石で調整している。

天井は幅1mほどの石材四つで構築し、床には板石を敷き詰めている。

羨道は長さ6.1mを測り、幅は玄門部で1.4m、開口部で1mと、入り口に向かって狭くなる。高さも玄門部で1.6m、開口部で1.4mと入り口に向かって低くなる。

側壁は玄室と同じく、大型の石材の上に長手の石を1～2段積んで構築している。

羨道の天井は玄室より低く、30cmほどの段差を生じているが、その位置は玄門と一致していない。天井を構成する3つの石材のうち、開口部の1石は特に大きく、その前面は3段目の列石につながっている。

床には部分的に円礫が認められた。

また、開口部で人頭大の礫を積み上げた施設が認められたが、天井部の外方に位置していることから、閉塞の根固めと考えられている。

石室内には5基の埋葬が確認されている。玄室内には陶棺3基・木棺1基が、羨道には陶棺1基が納められていた。

陶棺はいずれも土師質で、玄室の左側に置かれた2基は亀甲形陶棺、玄室右側と羨道に置かれた2基は切妻家形陶棺であった。

亀甲形陶棺のうち、入り口に近いほうのものには、その蓋の部分に「記|」という文字と記号が確認されている。これが何を示すかは不明であるが、漢字の地方への普及を裏付ける資料として注目されている。

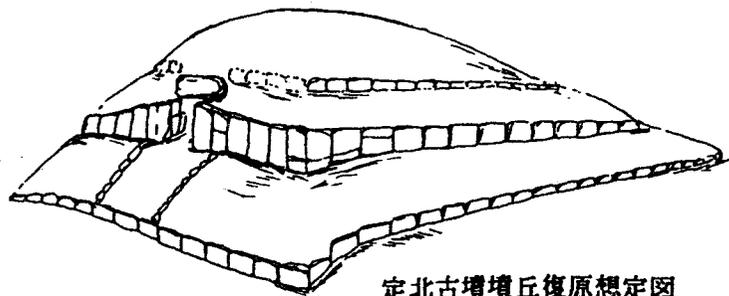
また、切妻家形陶棺に前後を挟まれるように置かれていた木棺は、長さ180cm、幅50cmと推定されるもので、長さ6cmほどの鉄クギを用いて組み立てられていた。

(副葬品)

棺内は盗掘を受けていたが、小玉・切小玉などの玉類や銅椀、鉄鏃などの遺物が残されていた。

また棺外からは須恵器のほか太刀、鉄鏃などが出土している。

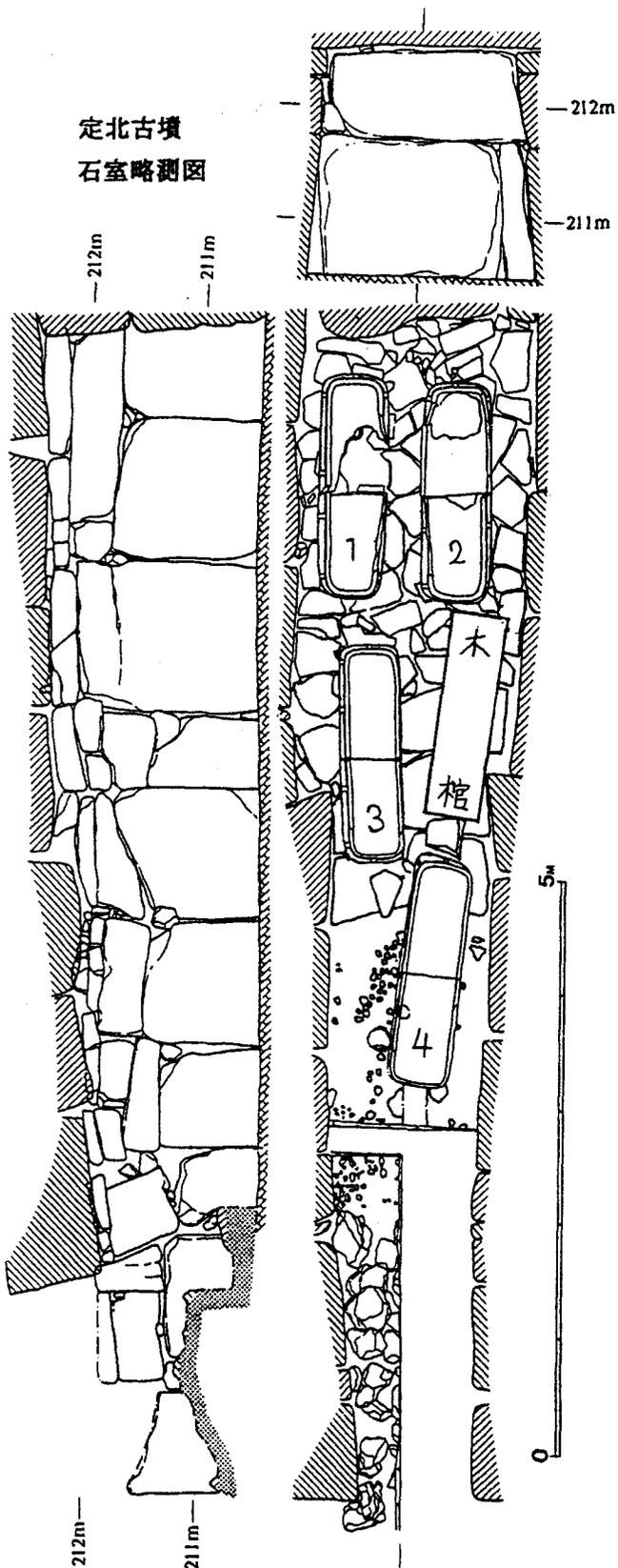
この古墳は7世紀後半でも早い時期の築造と考えられ、西方の大谷1号墳との関係が想定されている。



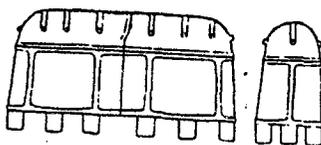
定北古墳墳丘復原想定図

「定北古墳 現説資料」より

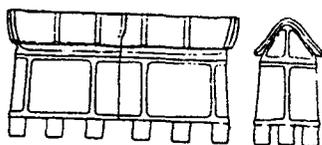
定北古墳
石室略測圖



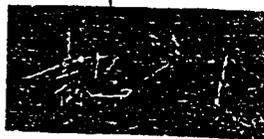
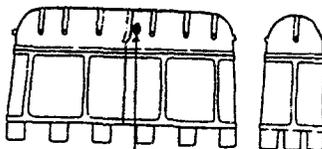
1号陶棺



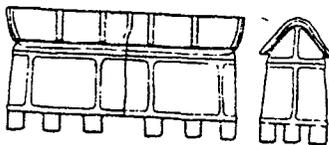
2号陶棺



3号陶棺



4号陶棺

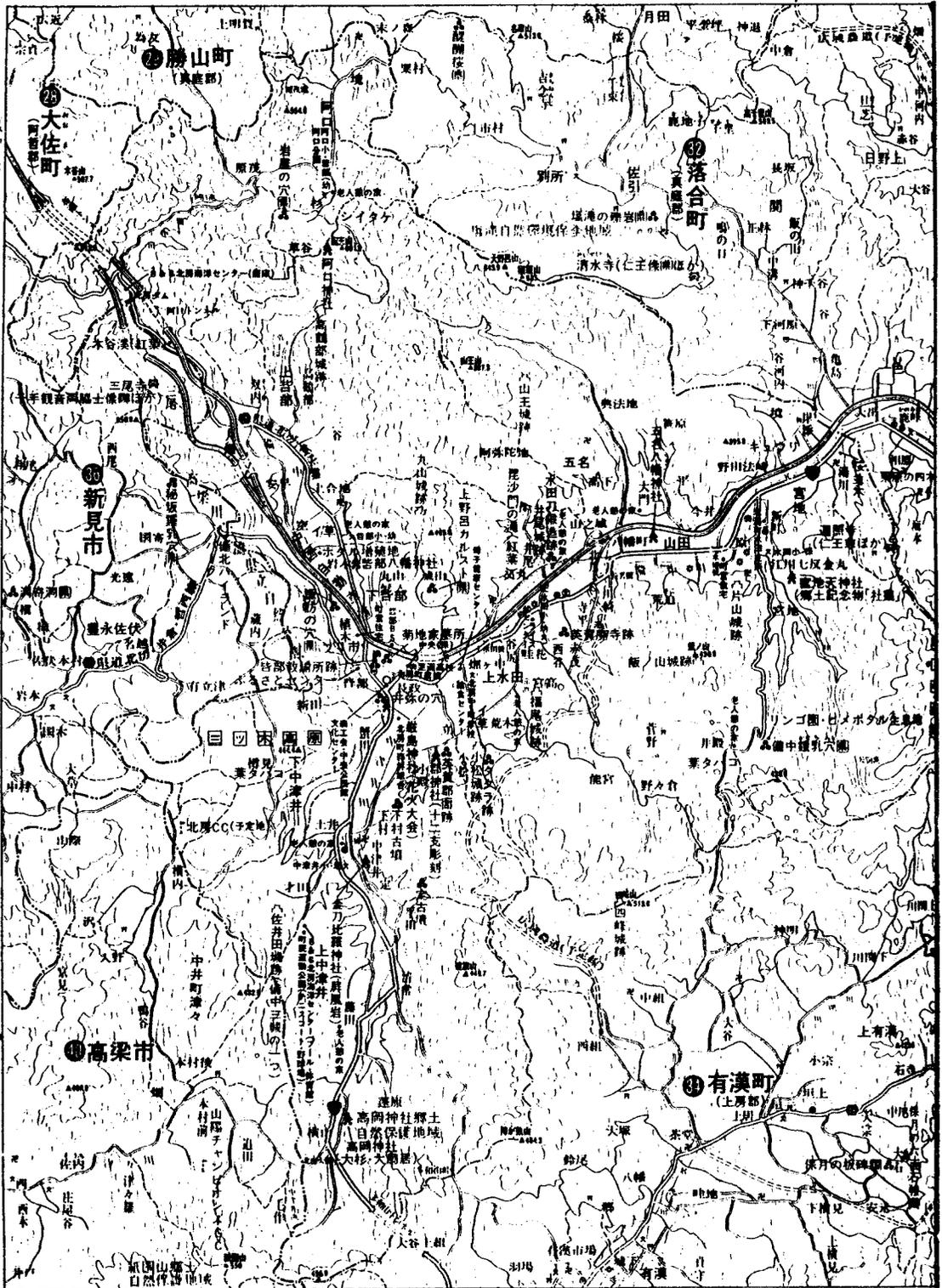
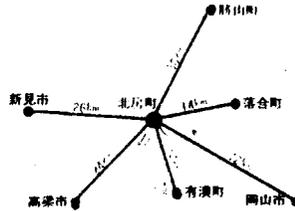


「定北古墳発掘調査現地説明会資料」より



ほくほうちよう 北房田

- 位置 (役場を中心) 北緯34度57分, 東経133度38分
- 面積 71.76km²
- 人口 世帯数1,964戸, 総人口7,135人
- 特産物 キヌワリ, 葉タバコ, シイタケ
- 特産物 ホウレンソウ, 蕎麦
- 交通 上野郡北房田町下野線255 千716-14 ☎(0866)52-2111

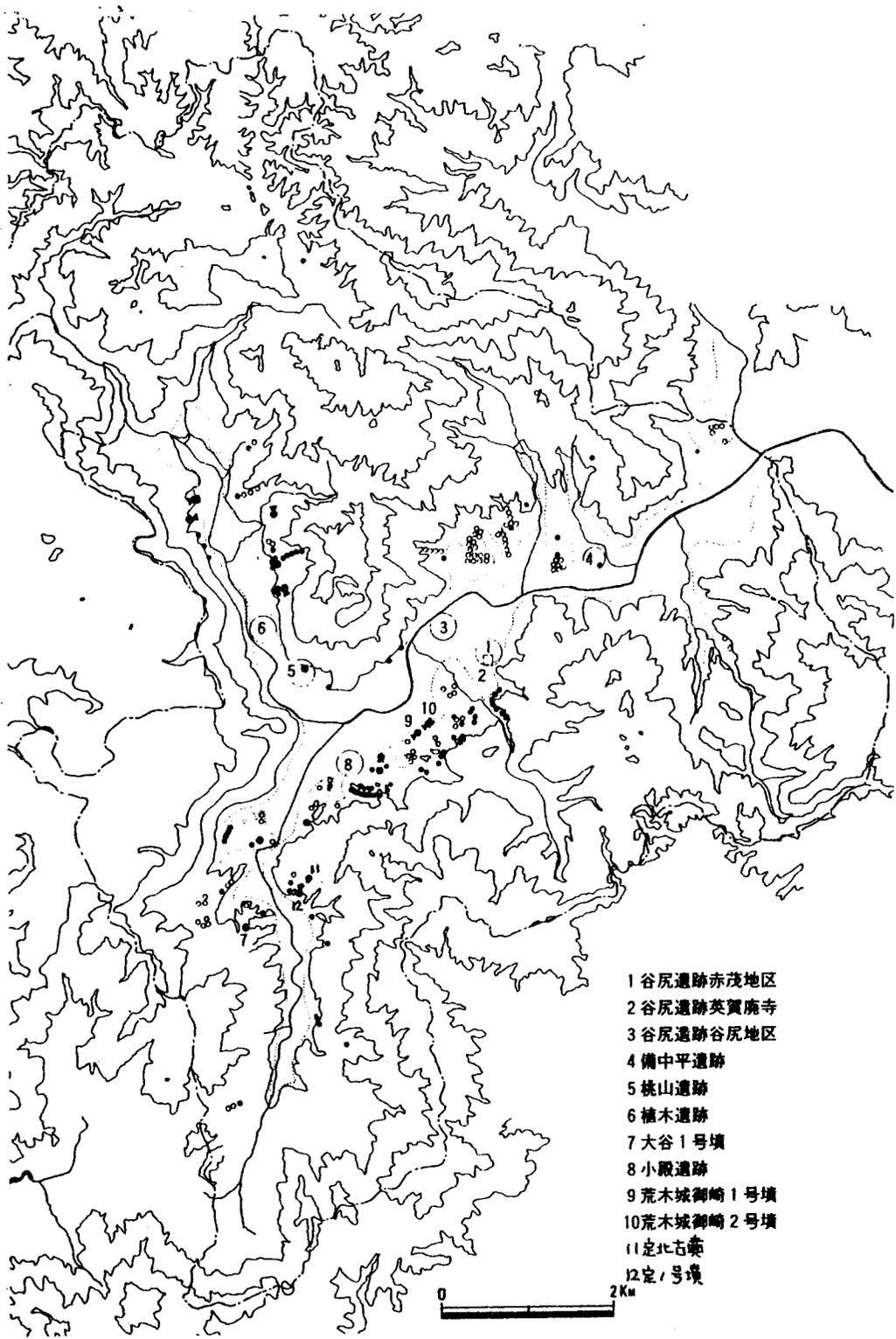


1 : 60,000

等高線は40m間隔

高梁市

「岡山県万能地図」山陽新聞社より



- 1 谷尻遺跡赤茂地区
- 2 谷尻遺跡英賀庵寺
- 3 谷尻遺跡谷尻地区
- 4 備中平遺跡
- 5 桃山遺跡
- 6 楠木遺跡
- 7 大谷1号墳
- 8 小殿遺跡
- 9 荒木城御崎1号墳
- 10 荒木城御崎2号墳
- 11 定北古薬
- 12 定1号墳

北房町内主要遺跡図 (1/75000) 〔谷尻遺跡 赤茂地区〕北房町教委

に一部加筆

